

---

## 業績のハイライト

---

- 平成 14 年度中間期決算(単体)について -

株式会社 仙 台 銀 行

- 目 次 -

1	はじめに	...	2 頁
・			
2	損益の状況	...	2 頁
・			
3	自己資本比率の状況	...	3 頁
・			
4	貸出金・預金・有価証券の状況	...	3 頁
・			
5	金融再生法開示債権・リスク管理債権の状況	...	4 頁
・			
6	平成 15 年 3 月期 通期業績見通し	...	5 頁
・			

## 業績のハイライト - 平成 14 年度中間期決算（単体）について -

### 1. はじめに

当行が地盤とする宮城県内の経済は、景気低迷の長期化が予想される中、公共投資・住宅投資とも低調に推移しました。また、企業倒産は依然として高水準であり、雇用・所得環境の悪化から個人消費が低位に推移するなど、全体として後退色を強めました。

当行では、平成 14 年 4 月に 2 年間の経営計画「ステップ・アップ・プラン」をスタートしました。平成 14 年度中間期決算は、本プランの主要目標である「企業風土の改善・改革と収益力の強化」に向けて、当行が取り組んで来た 6 カ月間の成果を表すものです。

### 2. 損益の状況

銀行本来の収益力を表すコア業務純益は、事業資金の需要低迷や低金利政策の継続等により資金利益が減少したものの、物件費の削減等により、ほぼ目標どおりの 15 億 35 百万円を計上しました。一方、業務純益については、一般貸倒引当金の繰戻額と国債等債券売却益が大幅に減少したことにより前年同期比 23 億 15 百万円の減益となりました。

また、中間期後半における株価の大幅な下落にともない、保有する株式の一部について 28 億 44 百万円の減損処理を実施しました。

この結果、経常損失で 11 億 6 百万円、中間純損失で 6 億 38 百万円を計上しました。

【表 1】損益状況

（単位：百万円）

	13 年中間期	14 年中間期	前年同期比
コア業務純益	1,751	1,535	216
業務純益	4,454	2,139	2,315
経常利益	1,306	1,106	2,412
中間（当期）純利益	780	638	1,418

（注）コア業務純益とは、貸出・預金・為替等の銀行本来業務による利益を表し、貸倒引当金の繰入れ、貸出金・株式等の償却、国債等債券の売却損益等を加味しない利益です。

【表 2】有価証券関係損益

（単位：百万円）

	13 年中間期	14 年中間期	前年同期比
国債等債券損益	1,536	395	1,141
売却益	1,687	396	1,291
償還益	2	41	39
売却損	-	11	11
償還損	0	29	29
償却	153	-	153
株式等損益	1,895	2,830	935
売却益	89	14	75
売却損	0	-	0
償却	1,984	2,844	860

### 3. 自己資本比率の状況

有価証券の減損処理にともない中間純損失を計上したこと等により、自己資本比率（国内基準・単体）は14年3月末比0.04ポイント低下の7.78%となりました。

【表3】自己資本比率（国内基準）（単位：％）

	13年9月末	14年3月末	14年9月末	前年9月末比	
				13年9月末比	14年3月末比
自己資本比率（単体）	8.16	7.82	7.78	0.38	0.04
（連結）	7.64	7.30	7.27	0.37	0.03

（注）14年9月末の計数は速報値です。

### 4. 貸出金・預金・有価証券の状況

#### （1）貸出金の状況

貸出金のうち消費者ローンは、住宅ローンを中心に引き続き高い伸びを示し、前年同期比19.2%の増加となりました。しかしながら、長引く景気の低迷により中小企業向けの資金需要は引き続き低位であったため、貸出金の全体残高は前年同期比1.1%となりました。

【表4】貸出金の残高（単位：百万円、％）

	13年中間期	14年中間期	前年同期比	増減率
貸出金（末残）	470,332	465,009	5,323	1.1%
消費者ローン残高	129,292	154,189	24,897	19.2%
うち住宅ローン残高	106,654	129,639	22,985	21.5%

#### （2）預金の状況

法人預金が減少となったものの、個人預金は堅調に推移し前年同期比4.0%の伸びとなったことから、預金全体としては0.3%の残高増加となりました。

【表5】預金の残高（単位：百万円、％）

	13年中間期	14年中間期	前年同期比	増減率
預金（末残）	719,867	722,035	2,168	0.3%
個人預金	462,692	481,645	18,953	4.0%

#### （3）有価証券の状況

有価証券の評価損益状況は、一部の保有株式について減損処理を実施したことにより、13年中間期の12億61百万円から、14年中間期は5億7百万円となりました。

【表6】有価証券の評価損益（単位：百万円）

	13年中間期	14年中間期	前年同期比
有価証券	1,261	507	753
株式	2,332	1,580	751
債券	1,311	1,321	10
その他	239	248	9

（注）平成14年9月末の株式については、中間期末日の時価に基づいております。

## 5. 金融再生法開示債権・リスク管理債権の状況

### (1) 金融再生法開示債権の残高

景気の長期的な低迷等の影響により、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」「要管理債権」の合計額は14年3月末比で10億59百万円増加しました。

【表7】金融再生法開示債権の残高

(単位：百万円)

	13年9月末	14年3月末	14年9月末	14年9月末比	
				13年9月末比	14年3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	10,315	10,137	11,755	1,440	1,618
危険債権	13,090	24,120	24,085	10,995	35
要管理債権	7,308	5,996	5,472	1,836	524
小計	30,714	40,254	41,313	10,599	1,059
正常債権	449,224	441,698	432,066	17,158	9,632
合計	479,938	481,953	473,379	6,559	8,573

(注) 正常債権には、要管理債権以外の要注意先債権を含みます。

### (2) 金融再生法開示債権の保全状況

金融再生法開示債権に対する保全率は、貸倒実績率の低下により、14年3月末の98.5%から、14年9月末は94.8%となりました。

【表8】金融再生法開示債権の保全状況(14年9月末)

(単位：百万円、%)

	債権額 (A)	保全額 (B)	保全率 (B/A)		
			担保保証等	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	11,755	11,755	9,347	2,407	100.0%
危険債権	24,085	22,435	18,814	3,620	93.1%
要管理債権	5,472	5,004	3,813	1,190	91.4%
合計	41,313	39,195	31,976	7,219	94.8%

### <参考> 14年3月末

(単位：百万円、%)

	債権額 (C)	保全額 (D)	保全率 (D/C)		
			担保保証等	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	10,137	10,137	7,913	2,224	100.0%
危険債権	24,120	23,720	18,870	4,849	98.3%
要管理債権	5,996	5,796	4,443	1,353	96.6%
合計	40,254	39,654	31,227	8,427	98.5%

- (注) 1. 危険債権については、債権額から担保の処分見込額および保証等による回収可能見込額を控除した額に、過去の貸倒実績率に基づく今後3年間の予想損失率を乗じ、個別貸倒引当金に計上しています。
2. 要管理債権に対しては、過去の貸倒実績率に基づく予想損失率より今後3年間の予想損失額を算定し、一般貸倒引当金に計上しています。

(3) リスク管理債権の状況

景気の長期的な低迷等の影響により、「延滞債権額」は14年3月末比で11億28百万円増加しました。これによりリスク管理債権合計額は14年3月末比で10億54百万円増加しました。

なお、リスク管理債権合計額が貸出金残高(末残)に占める割合は、14年3月末の8.49%から、14年9月末は8.86%となりました。

【表9】 リスク管理債権の状況

(単位：百万円、%)

	13年9月末	14年3月末	14年9月末	14年9月末比	
				13年9月末比	14年3月末比
破綻先債権額	3,972	3,595	4,045	73	450
延滞債権額	19,359	30,568	31,696	12,337	1,128
3カ月以上延滞債権額	328	182	367	39	185
貸出条件緩和債権額	6,979	5,813	5,104	1,875	709
合計 (A)	30,640	40,160	41,214	10,574	1,054
貸出金残高(末残)(B)	470,332	472,770	465,009	5,323	7,761
(A/B)	6.51%	8.49%	8.86%	2.35%	0.37%

<参考> 連結ベース

(単位：百万円、%)

	13年9月末	14年3月末	14年9月末	14年9月末比	
				13年9月末比	14年3月末比
破綻先債権額	3,980	3,613	4,082	102	469
延滞債権額	19,370	30,587	31,723	12,353	1,136
3カ月以上延滞債権額	337	210	392	55	182
貸出条件緩和債権額	6,981	5,817	5,110	1,871	707
合計 (C)	30,669	40,229	41,308	10,639	1,079
貸出金残高(末残)(D)	465,695	468,237	460,556	5,139	7,681
(C/D)	6.58%	8.59%	8.96%	2.38%	0.37%

6. 平成15年3月期 通期業績見通し

平成15年3月期の通期業績見通しについては、本業の収益力を示すコア業務純益は、ほぼ目標どおりの31億円程度となる見込みです。また、株価動向に不透明感はありますが、経常利益及び当期純利益については黒字を確保できる見込みです。

【表10】 通期業績見通し(単体)

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
平成15年3月末	18,400	800	600
(参考)平成14年3月末	20,846	799	445

<参考> 連結ベース

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
平成15年3月末	18,500	800	600
(参考)平成14年3月末	20,969	886	490

以上